



みどりの風

公益財団法人
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地
 TEL&FAX 0743-92-0346
 発行人 館長 上田 善紀
 発行日 平成30年3月20日(火) 第12号

第68回月ヶ瀬梅まつり俳句会

3月14日(水)、公民館大ホールを会場に京都、三重などからの参加も得て約60人が集う俳句大会が催されました。

大会での高ポイント

山里に屏風走りの春時雨 すま
 縄跳びの一抜け二抜け春へ出る ちづ子
 梅の里歴史織りなす機のみ音 和代
 梅が香に君見失ふ七曲り 雍子
 肩ぐるま枝引き寄せる梅日和 旅人
 溪底の此処まで咲かせ梅の里 残照

西浦久翁(号・月城)がこのたび句文集「梅が里」を上梓されたこと、公民館にも寄贈していただきました。奥さまの澄子さんの和紙絵も数多くあしらったすてきな本です。

風を読み風にとどまる赤とんぼ
 手花火に思はぬ雨の一雫
 寝待月誘ひだされて女坂



丸山佳子先生の句碑建立に携わったことがご縁で俳句を始めたと語る 西浦久翁(月城)さん

月ヶ瀬の誇りシリーズ(1)

(文中敬称略)

関西女流俳人・丸山佳子



丸山佳子(まるやま・よしこ)。本名は丸山ハツ子、石打出身の俳人で去る平成26年6月、106歳の天寿を全うされています。

俳誌「京鹿子(きょうかのこ)」の名譽顧問、現代俳句協会の名譽会員でした。「京鹿子」は、京大三高俳句会をルーツとして大正9年に創刊された俳句誌で、高濱虚子を師系とする、まさに現代俳句の本流を歩んできた伝統結社の一つです。

その2代目主宰として受け継いだ丸山海道と結婚し、一流の女流俳人として表舞台に立っていました。

小さな山里の同好者による大規模な俳句大会が、68年もの長きにわたって開催されていることに驚きます。これも俳人、丸山佳子の存在なくしては築けないものです。

代表句

吊り橋に目尻ひりひり初河鹿
 三伏をさらりと此処に箸を置く
 本尊にそわかそわかと蝶生まる
 故郷はひそかになかす花わさび
 天つ日に泡立つごとし谷の梅
 けふよりのいのち長かれ髪洗ふ
 手鏡の顔消すおのが白い息

春一番梅の郷ふれあい祭りで「やまびこ太鼓」を披露

2月25日(日)、ロマントピアでは、ライブコンサートを始め模擬店を並べたミニフェスタを開催。そのフィナーレに長引の皆さんによる「やまびこ太鼓」が披露されました。



福永 三知さんと
 佳子さんご夫妻

中村 豊美さん



月ヶ瀬薫風

紙幅が尽きてしまい、本文では紹介できませんでしたが、3月14日(水)、「月ヶ瀬梅林と斎藤拙堂」という講座名で市街地から17名の参加を得て真福寺から天神梅林のコースを散策しました▼

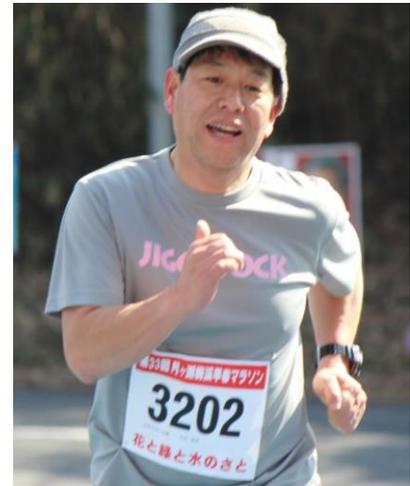
この講座は、ここ数年連続く「定番」もの。今回も定員15名のところ29人も応募があったほどに注目度の高い講座の一つです▼参加者の満足度は殊のほか高いものでした。咲き誇った梅花とともに、講師を務めていただいた窪田良蔵さんの微に入り細を穿つがっつ解説に多くの参加者が堪能し、帰路につかれませんでした▼これにて今年度の公民館事業はすべて終わりました。地域の皆さまには、4月から、公民館運営に際しましてご理解と協力をお願いします。

第33回月ヶ瀬梅溪早春マラソン大会

好天に恵まれた2月18日(日)、梅まつりのオープニングを飾る「梅溪マラソン」が実施されました。埼玉、東京、愛媛などの遠方からの参加者も含めて481人が春を待つ梅林を駆け抜けました。



開会式にて…**左**一高らかに選手宣誓をする浦 凌介くん(中学2年)、**中**一來賓として祝辞を述べる衆議院議員の小林 茂樹さん、**右**一大会長として歓迎の挨拶をする坂西 偉樹さん(尾山)



余裕の表情でゴールインする
今井 吉則さん(月瀬)



■今井 吉則さん…去年15年ぶりに走りました。今年は去年のタイムを上回る20分以内を目標にして臨みました。結果は、残念ながら40秒ほどオーバー。やっぱり、最後の坂はきつかったです。



下口 莉奈さん(中学3年)の作品がポスターになりました。



一般男子5km、堂々の第2位を獲得した東久保 秀明さんのスタート直後の雄姿

月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ

ちょっとしたためになる話

俳句に「鳥帰る」という季節があります。ちょうど今頃、日本で越冬したツルやカモ、ガンなどの渡り鳥が北方に帰っていくことです。「大造じいさんごらん」の最後の場面の様子ですね。

どうして休けないの？

でも、不思議に思いませんか？いったん日本列島を離れてしまえば海ばかり。1万1千kmを9日間休むことなく飛び続ける鳥もいるそうです。いったいどこで羽を休めるのでしょうか。

実は、鳥の翼の付け根の筋肉に疲労回復に効果的なイミダペプチドという物質が含まれています。そのために、鳥たちは休まずに飛び続けることができるのです。鶏の胸肉はパワーの源になりますね。



寝るのはいつ？
では、何日間も飛び続けるっていつ寝るのかな？

実は、飛び続けながら「半分」寝ているのです。渡り鳥たちは、片方の目を閉じて寝ています。もう一方は目覚めていて、仲間との距離感を保ったり飛び方方向を確認したり外敵に備えたりしているわけです。これを「半球睡眠」といっています。

ありがとうございました 駐在さん

平成19年3月から11年間、月ヶ瀬の安心安全を守っていただいた駐在所の田中 康裕さん(警部補)が、この3月末で定年退職を迎えられ月ヶ瀬を離れることになりました。



■田中 康裕さん…11年前に檀原勤務から月ヶ瀬に赴任しました。不慣れた土地ということでも戸惑いもありましたが、妻が婦人会のバレーボールチームに入れていただいたり、私自身もボートや駅伝に参加させていただいたり、家族共々受け入れてくださったおかげで月ヶ瀬に密着した仕事をすることができました。私にとっては、ふるさとのような土地となりました。「駐在所だより」は、地元連のニュースや実際にあり得る事案などを掲載することで興味を持って読んでいただく工夫をしていました。



月ヶ瀬の安心安全の生活を守ってきた充実感いっぱいの田中 康裕さん

鳥帰る遙けき人に声高く